第３２回アクラスZOOM寺子屋　「感想」

本日は参加させていただきありがとうございました。今日参加された方々の中の多くは現状に対して問題意識を持っている方々だと思いますが、それでも「多文化共生」や「移民」などのことばに対する考えや価値観は異なっていて、だけど、そのことは話してみないとわからなかったことです。
こうした場をいろいろなところで創っていくことも大切なことだなとあらためて感じました。
もう１つ、本日の話の中で「日本社会への貢献」といった側面のお話も出てきました。個人的には、外国にルーツのある方たちをそのような視点ではあまり捉えてはいないのですが、
そういう意味では、直接的に恩恵を受けているであろう企業などが、もっと発信し、メディアももっと取り上げてくれればいいのになとも思いました。

　地域（県や市町）の日本語教育に関わるようになり「多文化共生」という言葉がほとんどの市町の総合計画の中に明記されているのを見ました。また、それを足がかりに、市町の職員の皆さん、お忙しい中「多文化共生」を具体的な形にしようと努力されている姿を間近でみてきました。「推進法」ができて、ここまで辿り着きました。とはいえ、地方は人とお金が足りず、いざ日本語教室を始めてみたものの、この先続くのかという不安を抱えているところばかりです。
　佐藤先生のご著書を読み、今日のお話を伺って、確かに「基本法」があれば、もっと根本的なところからの変化につながるのだろうという希望を感じました。その希望を持ちながら、周囲の身近な人々に、「意識改革」を伝える努力をすることが、私の置かれた立場でできることなのだと思います。
　これまで「多文化共生」という言葉を口にする時、絵空事ではしないかと、ふと何か空虚な感覚になることもありました。けれども、今日の寺子屋で、佐藤先生、嶋田先生、そして参加された皆さんが、それぞれの場で活躍していらっしゃるとことをあらためて感じ、その言葉に命が吹き込まれたように思いました。どうもありがとうございました。

佐藤先生の『難民と移民は違う』という言葉に『そうだ！』と気づかされました。難民と移民は同じだと考えている人が多いと私は思いました。私は移民は良いと思いますが、やはり受け入れる側も地域日本語教育をしっかりとした形にしなければならないと思います。政府にもしっかりと関わってほしいです。それから小学校や中学校などに日本語教師が入ることは難しいかと思います。『教職の壁』があります。そこをどうするか国がはっきりと方向を示してほしいと思いました。

実践例、大変参考になりました。

多文化共生へのアプローチ方法について、いろいろな意見も出ました。個人的には、行政を動かすには議員、首長を巻き込んむことが必要だし、問題はあるにせよ経済界も引き込む必要があると思います。それぞれの地域の状況によりアプローチの仕方も変わってくる部分もあるでしょうが、国全体として考えなければならない問題もあると思います。

先日ヤマト運輸がベトナム人運転手を５００名育成するというニュースを見た。特定技能の働き手として、企業が現地のエージェント、企業対象の日本語指導を行う日本の企業と手を結んで現地と日本で外国人労働者を育成する話を最近よく耳にします。一方で、地域で災害の際、「逃げ場」を考えた時、地域は日本人対象であり、外国人留学生に押し寄せられると困るという排外的な考え方もあるとも耳にします。日本で働いてほしいと日本に呼び寄せる風潮と日常生活で外国人を受け入れたくない風潮が同時にある現状をどうしたらいいんだろうか、自分に何ができるのだろうか考えてみたいと思い、参加しました。先生のご本も拝読いたしました。とても読みやすく、読みながら日本語学校で出会った、日本語や日本をとても大切に思ってくれている学生たちのことが思い浮かばれました。
まずは、日本でお互いの文化を尊重し合いながら生活することを心地よいと感じて生活している留学生たち同士の交流を深めること、そしてできれば少しずつ地域の日本人を巻き込んでいくような活動がしたいと思いました。
学生から「先生は自分たちを外国人として見ているんですか」と言われた、と仰っていた受講者の方のお言葉と「ことばしか教えない日本語学校」というお言葉が心に残りました。私は、最近ヨガの指導者の資格を取得しました。まずは留学生対象にヨガフェスをする。そして、少しずつ地域の日本人にも参加してもらう。からだを動かすことで授業やことばを通したものとは違う交流やコミュニケーションの場を提供してみようと改めて強く思いました。
ありがとうございました。

外国人のことを本当によくご存知の様々な立場の方と意見交換ができ、貴重な機会となりました。長野という地で30年という長きにわたり、活動を続けられていることに頭が下がる思いです。嶋田先生、佐藤先生、このような会に参加させていただき、ありがとうございました。

初めて寺子屋に参加させていただきました。移動中のため、スマホでの接続によりご迷惑をおかけしたことを改めてお詫び申し上げます。一外国出身者として移民に対してどのような考えていらっしゃるかとても興味があったので、昨日参加していろんな方の声が聞くことができ、とても良かったと思います。また長野県阿部知事の推進の多文化共生社会の実現に向けた座談会のニュースも早速ネットで調べてみました。まだ佐藤先生の著書を読んでいないのですが、是非読んでみたいと思いました。短い時間でしたが、とても有意義な時間でした。この度は貴重な機会を与えてくださりありがとうございました。

昨日は、大変勉強になりました。
移民問題と言っても様々な課題があるんだなと改めて実感しました。
地域社会への多文化共生の理解が低いというのが、気になりどのように取り組めばいいかと悩んでおりましたが、佐藤先生からもあったように、まずは普段接している留学生の様子や現状（いい点も悪い点も）発信していくことだなと思いました。
また、留学生や接する外国ルーツの方々に対しても、「知らないから間違ったことをする」ということを意識して日本のルールやマナーなどしっかり伝えることが大事だなと思いました。それが日本語教師の使命でもあるなと改めて実感しております。
外国人の排斥主義の風潮が進む中、いかに多文化共生への理解を世間一般に伝えていくか、私自身の役割だと強く思うようになりました。外国人への支援だけなく、活動の範囲を広げて日本人に対しても多文化共生の理解を促す取組みのヒントもいただけました。
正直、2時間では物足りなかったです。ですので、ぜひ第二弾をお願いします。
本当にありがとうございました。

今回は本のタイトル「移民が増えて、いいことって何だろう？」というタイトルが非常に気になって（悪い意味で）参加しました。
佐藤様のお話は納得できることも多く、日本語教師は国内在住の外国人について、外国人と接触したことのない方に客観的事実を広めていく必要があるという点は賛同いたしますが、基本的な考え方に「移民を受け入れることにはメリットがある（有益な移民を受け入れる）」というのは結局「有益ではない移民は排除する」に繋がり、現在の日本社会の排外主義と表裏一体であると思いますので、私は明確に反対の立場を取ります。
日本語教育に関わる者が「外国人は日本人との共生のために日本語を学ばなければならない」と考えることにも反対です（直接佐藤様がそう言及したわけではないですが、そこへ向かっているとお話を聞いて感じました）。
また私は意識して多文化共生という言葉は使わないようにしています（いまだに自分の中で多文化共生という言葉が理解できていないからです）。また外国人支援に深く関わる立場の方には多文化共生社会の実現をめざすという考えに必ずしも賛同しない方もいます。本来の順序からは、多文化共生基本法の制定を目指す前に日本が外国人とどのような社会の実現を目指すのか目標設定をすることが必要かと思いますが、過去の経緯から、国会でそのことを議論する機会を実現することは非常に困難だと思います。そのような状況ですでに日本に在住している外国人の方が多くおり、佐藤様は地域で外国人のために長年活動をされているように私も自分のできる範囲で自身の信じる外国人支援をしております。
今回嶋田先生のおかげで考える機会をいただきありがとございました。今後は外国人支援に関わるステークホルダーが本音できちんと議論をする場が作れるといいなと思っております。
中々自分の言いたいことが言語化できず失礼な物言いになってしまい申し訳ありません。

ご著書は読んで参加しましたが、実際にお話を聞くことでわかることが多く、参加できてよかったと思いました。グループワークでは、やはり地域によって、外国人に対する住民の目も、多文化共生の意識も異なるのだとあらためて、感じました。グループの方々は働き方は異なっていても、全員、日本語教師か教師経験者だったため、やはり周囲に私たちの知るリアルな外国人の姿や様々なデータを発信することはしていくべきだと話し合いました。
　私自身は外国ルーツの子ども達の教育は急務だと感じています。日本語がわからない→国語以外の科目もできない→できない子という烙印を押され学校での活躍の場がない→登校拒否や道から逸れてしまう→才能を開花できず危険因子ともなりうる…それを地域のボランティアに丸投げしているなんて、無責任としか言えません。なぜ政治家はわからないんだろう。目先の選挙の票に結びつかないからですね。きちんとチャンスが与えられれば高額納税者になってくれるかもしれない若い芽を自ら手折っているとしか感じられません。仮釈放中の移民申請者に就労を禁じている点も日本の政治は二流、三流だと言われるのも当然だと思います。
　佐藤先生の松本市の例や嶋田先生の杉並区の例のように地域の有力者を巻き込むことが重要だと思いました。今回のような対話を日本語教師以外ともしたいと感じました。

今の日本の外国人に対する厳しい流れを、大変残念に恐ろしく思っていましたので、今回の寺子屋で、明確な指針を、言語化して得ることができました。一方、「排斥」の考えの人たちと、どう話したり、共存というか、「対話」できるのか、さらにこれからの課題です。いずれにしても、新しい政権になって、「平和」が崩れて行く不安がなくなりません。なんとか食い止めなくては。

昨日はありがとうございました。初めての寺子屋参加でした。
在日外国人について、様々な視点からのご意見を伺うことができ、新しい刺激をたくさんいただきました。私は特に子供の教育について関心をもっています。大人に連れてこられて日本に来たものの、　言葉がわからないなどで不登校になってしまっている子供の数は少なくないと思います。日本語がわからないだけでなく、教育も受けなければ、その子の社会生活は日本でも母国ででも厳しいものになることは予想されます。浜松ではそのような子が起こした事件もありました。外国人の課題を考える時に、子どもの問題は大きいと思います。そのことについて佐藤さんのご意見をお聞きしたいと思いましたが、発言の場があることを知らず、準備ができていなかったことが残念でした。
次回も楽しみにしております。

このようなセミナーを企画していただきありがとうございました。仕事を離れると、外国人排斥の意見をよく耳にし、日本の将来を危惧しております。非常にタイムリーな話題で、今、本当に聞きたいことでした。嶋田先生や佐藤先生を始め、多文化共生に向けて動いている方々の活動や小池知事の政府宛ての要望を知り、希望が出てきました。「多文化共生の基本法」の必要性がわかりました。子どもの日本語教育についてもヒントを頂き感謝しております。去年韓国の議員数名が職場に来ました。外国ルーツの子供が増えている、韓国語がわからず授業中に寝ているケースが多く、大きな問題になっているので良い方法を教えてほしいと相談を受けました。韓国の方が日本より外国人に対する法律や韓国語教育システムがしっかりしていると思っていたので驚きました。佐藤先生のお話を伺い「学習日本語」習得と外国ルーツの子どもの日本語を改めて考えさせられました。近隣の市町村でやっている日本語スピーチコンテストに学生に出てもらい、体験や感じていることを一人でも多くの人に聞いてもらえるように働きかけていきたいです。また、『移民が増えて、いいことって何だろう？』を他の人にも紹介していこうと思います。どうもありがとうございました。

ZOOM寺子屋に初参加、大変有意義な時間をいただきました。ありがとうございます。
佐藤友則先生の本を読んでから参加致しました。またZOOMの中でご紹介くださいましたアクラス研究所の「多文化共生セミナー」のレポートも後日拝見いたしました。

日本において多文化共生社会の実現には、基本法の制定、今後あらゆる分野から施策を進めるための組織づくりを急ぐ必要をひしひしと感じました。でも、それだけでは十分ではなく、根底には私たちの「受け入れる意識」が今よりもっと進まなければ成り立たないことを改めて感じました。
他国（ドイツ、韓国）の事例を読みましてもその難しさを考えさせられます。
一方で、台湾の移民状況にもう少し注目してみたいと思っています。

今の日本でできるのでしょうか。　しかし、将来への道づくりに一歩踏み出さなければ、
人の気持ちも動きませんね。日本に来る外国人も、受け入れる日本人も、
安全で安心して暮らせる毎日を守る、そのためにもお互いを認め合えるところから。
私にできることはささやかなことですが、何か遭遇した時に適切に伝えられるよう、これからも意識していきたいと思います。

私は、福岡県北九州市の地域の日本語教室、東京都杉並区の子ども日本語支援でのボランティア活動を経験し、様々な理由で来日した外国人と接する機会を楽しみ、そこでできたご縁を今後も大切にしていきたいです。　それを再度感じられたことも良かったと思いました。

佐藤友則先生、嶋田和子先生、良い機会を本当にありがとうございました。

参加者の方にも何人かいらっしゃいましたが、今回の寺子屋にはご著書のタイトルに惹かれました。「いいことって何だろう」の答えは今も明示できない状況ですが、皆さんと一緒にお話しした時間は貴重でした。答えの出ない問題も繰り返し繰り返し考えたり話したりしていくことが、少しずつの前進を生むのではないかと信じて、日本語教育の一員として、できることをしていきたいと思います。
このような場を設けていただき、どうもありがとうございました。タイトル決めに至った経緯や、内容を直接聞かせていただいたことで、理解が少しできてきたように思います。こちらの書籍を使って、読書会をやってみたいと思います。どうもありがとうございました。
日本における外国人受け入れの状況について、様々な事例から学ぶことができました。また、「ウワサでもデマでもない「生の本当の外国の学生」を知っている人は、周囲の人に本当の姿を伝えてほしい。」という先生の言葉が印象に残りました。SNS上で外国人を差別する投稿が増えつつある中で、外国人の本当の姿を周囲の日本人に伝えることも日本語教師に求められていることだと感じました。
お話に出てきた皆様の、外国ルーツの方々の、受け入れ側としてのご尽力を伺い、とても勉強させていただきました。また、現在の日本語教育が携わっている部分などのお話も伺えて、大変ありがたいことでした。個人的な感想としては、この「多文化共生」が、受け入れる側の「許容」に傾いて、「我慢」を強いるような制度ではなく、お互いの文化を学び合い、折り合いをつけて暮らせるようになれたらと思いました。 また、お話にもありました通り、自国民の働き手が不足している分野で、「日本で働こう」と思ってくださる外国ルーツの方々には感謝しかありません。でも、働いてくださるなら、どなたでもいいというわけではなさそうです。働いてくださる方々や、おそらく企業の語学サポートのなさそうな、そのご家族にも、例えば、住民の生活ルールなど、地域住民が大切にしていることなどを理解して、意識してもらえるような取り組みが、自分が住む自治体にもあったらいいと思いました。また、日本語教育に関わる者としてそのようなサポートに携われたらと思いました。 改めまして、この度は貴重な機会をいただき、どうもありがとうございました。
貴重なご講義を誠にありがとうございました。ご著書に込められた想いや読者にどのように手に取ってもらいたいかという意図を伺うことができ、この度の寺子屋に参加して良かったと強く感じております。昨今の「外国人」に関する話題や社会的風潮において、在留外国人・訪日外国人が混同され、取り上げられる事柄の根拠も不明確であることに違和感や憤りを覚えておりました。一方で、今まで以上に政治的な部分とも結びついてしまったために、意見を言いづらい雰囲気を感じてしまい、どうしたものかと悩んでおりました。今回、ご著書やご講義からそのモヤモヤが言語化され、データや事実を提示しながら発信したり意見交換をしたりする等して地道に進んでいくことが大切なのだと、気持ちを強くする大きな気づきとなりました。また、寺子屋の参加者の皆様との意見交換からも、それぞれの立場や関わり方からの視点を伺うことができ、大変勉強になりました。素晴らしい機会をいただきありがとうございました。
「移民が増えて、いいことって何だろう？」多くの人が不安や疑問を持っています。今回ZOOM寺子屋に参加していろいろな視点から議論することができました。最近は未知の不安から排外主義に偏る傾向がありますが、お互いの理解を図り共生していくことが必要と感じます。まずは身近なところから壁を取り除き、「多文化共生」に向けて取り組んでいきたいと思います。
寺子屋をきっかけに、「移民が増えて良いことって何だろう？」を読む機会を得ました。とても読みやすく、多方面から移民をめぐる課題を考えることができました。 寺子屋の話し合いで印象に残ったのは、若者の不安でした。制度が整わない中で気がつけば、こんなに周りに多くいる外国ルーツの人々、それが不安のもとであれば、やはり多文化共生の ための基本的な方針、具体的な施策が必要なのだと思います。
最近、外国人受け入れに対する世論の否定的な傾向を感じていましたが、佐藤先生のお話や参加者の皆さんとの率直な意見交換を通して、日本語教師としてのスタンスを見直す良い機会になりました。
日本語学校に在学しているネパールの留学生の将来を考えながら指導することの大切さと地域との共生の大切さを今一度自分なりに考えなければと強く思いました。本当に有り難うございました。出しているとばかり思っていました。失礼しました。